パンタナール通信

南北米福地開発協会　会報　２０１０年６月１日　８１号

レダ現地開発プロジェクト責任者中田氏報告会　（５月９日、大山会館にて）

中田先生報告

『現地で歩む上山さんとかとは何時もレダで成し遂げた事に『こんなもんではいけないよな』と出発の原点に照らして話し合っており、自分たちとしては成し遂げたことは余りにも少ないと感じて反省していますがレダに来られた方々が余りにも喜んでくれるので、その人たちの感動ぶりを見て、我々もよかったなぁと思わされています。

レダの景色はとてもスペシャルで、鳥の種類は驚くほど多く、鳥の楽園で、まさに観光の王国です。パンタナール、アマゾンを含めると現在分かっているだけで９００種類以上の鳥がおり、パンタナールだけでも６５０種が居ます。多くの人がレダを訪れたいと言って来ますが現地では人材不足で、出来るだけ仕事は増やしたくないと感じているのが正直、現実です。

先日、アスンションに上がり、佐野さんとお世話になっている方々に日本で作ったカレンダーを渡すため、訪問した時、何時もお世話になっている旅行者の人が感動し、是非、レダを訪問したいとの要請をして来ました。私としては現地は人手がなく忙しいので本音はやりたくないと返事を渋っていたところ、何度も何度もアスンションいる日本の方々も是非、パンタナールに行きたいと熱望している方がいるのでと願われるので訪問を許可しました。

パンタナールは湿地帯であるので今までは使い道がないと経済的には関心が薄かった地域でしたが生態系から見るととても貴重な土地で、絶滅種を守っていかなければならないのが神様の願いでもあります。

レダの土地は絶滅種になりつつあるジャグァーの避難所のようになっているほどです。

旅行者の北中さんとともに六名の日本の方が来られ、施設の紹介をまずしました。彼らはＮＨＫなどでパンタナールの映像は見て知っており知識としての理解は持っていました。（別紙に続く）

パラグアイ川の水
茶色に濁っています

モリンガの粉をまぜた後の
水、白っぽい状態になります。

浄水器を通した後の水は透明です。

メールでモリンガの研究家の山氏のアドバイスを受けながら水の浄化に挑戦しました。５百ミリリットルのペットボトルに川の水を入れ、０．５ｇのモリンガの種の粉を混ぜて、よく混ぜます。六時間ほど経過すると、大きな粘土質の汚物は下に沈殿します。その上澄み水を砂と砂利、炭で作った浄水器を通すと、透き通った水ができます。

心配したほど苦味のない水ができました。この水ならインディオの人達も簡単に作れて、飲料水として安全なものとなります。

山氏が使っているモリンガの粉は、油を絞った後の粉で、インドから手に入れています。その場合、苦味は全く無いとのことです。

モリンガの油は高級食用油として使われています。

（伊達研究員、レダにて）

現地労働者との交流のひと時（五月一日メーデーの日）パラグアイのメーデーは大きな祝日で、レダでも牛と豚の肉をアサド（焼肉）にして、労働者や海軍、警察の人達にご馳走しました。レダで飼っている豚の肉は柔らかくて好評でした。

飯野副会長巡廻報告（福岡）

飯野先生を囲んで（九州集会報告）

四月十八日（日）に行われた定例集会のご報告をいたします。九州ブロックの定例集会は、通常は月末最後の日曜日に行われる予定にしていますが、今回、来週の二十六日に飯野先生がレダに出発されると知り、その前に是非とも現地の様子をお伺いしたいと思い、急遽、日程を変更して集会を持ちました。

飯野先生は、集会の前日に福岡入りをされましたので、レダ行きを決意している私の実弟である松崎政司に会っていただき、レダに長期滞在するための条件などを話していただきました。

翌日集会は飯野先生がパワーポイントを使って、現地の自然の様子や、活動の報告をなされました。

途中、飯野夫人も話を補足してくださり、女性の立場でのレダの生活の現実を明かされ、身の引き締まる思いを持ちました。

今後の課題として、人材が不足している中で、願わくは、即戦力になる専門的な技術を持っている人がぜひ来てほしいということ。機械のメンテナンスや、電気関係に詳しい人、あるいは、農業に知識のある人に対する要請がありました。

また経済的自立を如何にしていくかということで、いろいろと意見が交わされました。

特に話題となったのは、パラグアイに自生している薬草についてのことであり、薬草や漢方薬に詳しい人、そうでなくても、薬剤師の免許を持っている人が来てくれればとの話が盛り上がってきたところで、出発の時間、三時半となり、記念撮影をしてお見送りしました。

今回の集会を通して、最前線でご苦労しておられる先生方と後方支援を担当している者たちがもっと深いところで事情を理解し、必要なものを支援していかねばならないと思いました。

高島幸司より

高崎市にてレダ開発報告会

高崎市に在住する会員の方の要請で高崎にて南米、レダでの活動報告をパワーポイントを使い行いました。一九九九年から文鮮明先生のために生きる思想を中心に自然保護とパラグアイのインディヒナ村への奉仕を中心に始まった開発の歴史と現在何を目指し活動を進めているかを中心に話をしました。参加者は三〇〇名ほどで初めて聞く方がほとんどでしたが熱心に聞いてくださいました。

特に日本のように経済的に豊かな国は発展途上国へ積極的に物心両面の援助を勧めて行くことが一部のボランティアに携わる人だけでなく、全ての国民が関心を持ち、具体的に実践する事が大切であることを強調しました。

日本が国の政策として、開発途上国へ援助を経済的、技術的に成して来ましたのでパラグアイの国民の日本と日本人に対する評価も高く、信頼感を強く持っている事は現地ではっきり感じ、日本人としての誇りを刺激されました。

しかし、世界の先進国の傾向として、国家間での支援とともに民間ボランティア活動の主体的な活動を通して発展途上国への民間レベルでの支援の重要性が認識されています。

国家間では出来ない発展途上国の人々の生活に密着した民間レベルの支援が先進国では活発化しています。

日本においては日本人の国民性も反映してか民間レベルでの国際社会へのボランティア活動は十分でなく、今後の大きな課題の一つになっています。

特に日本では長い間、経済の豊かさの中に生活し、経済的繁栄のみを目標とする生き方に疑問を感ずる青年も多く、世界に出て、世界のために尽くしたいと考え、海外にてボランティア活動を経験したいとジャイカに募集する青年も多くなっていると聞いています。

ジャイカの募集で海外に派遣される青年は募集人数の六分の一に過ぎない様で、多くの青年が海外で活動し、日本人として国際社会で貢献できる機会を得られない事は大きな国家の損失であると考えられます。

そのため、民間のボランティア組織が国民的レベルで成長し、奉仕の意志を持つ、青年達に世界に出る機会を与える事が出来れば日本にとっても大きな未来への投資となり、それらの青年の中から国際社会に貢献出来る人材が多く輩出されるのではないかと思います。

日本人の誠実さで正直な性格は、すでに過去の移民で世界に行かれた方々により各国で証明されています。

今後は以前のような経済的理由での移民としてではなく、日本が世界のより良き平和と発展のため、国家、国民レベルで世界に出、特に発展途上国の国と国民とともにその国のため、積極的にボランティアをなし、ボランティア先進国になる可能性を持っているのではないでしょうか。

そのため、多くの青年達がボランテャイ活動で世界に出ることができるようにしなければなりません。

南北米福地開発協会でも十年前から青年をパラグアイに送り大きな成果を上げて来ました。今年も八月二十五日から九月十日までパラグアイ、チャコ地方のインディヒナ村でのボランテャイを行います。

高崎で青年に講演（柴沼）

地球の緑を守る会特別集会案内

環境セミナー講義案

〔第一講座〕

《環境問題の歴史と現状》

★国内：

一九六〇年代　「公害の時代」

一九七〇年代　「公害から自然破壊へ」

一九八〇年代　「温暖化登場」

一九九〇年代　「リサイクル法登場」

二〇〇〇年代　「健康問題と温暖化」

★世界：

一九六二年「レイチェル・カーソンの『沈黙の春』出版」

一九七二年「ローマクラブ報告書《成長の限界》」

一九八二年「地球環境サミット（リオデジャネイロ）」

一九九七年「京都会議（第三回地球温暖化防止条約締約国会議）」

★私たちをとりまく状況：地域で、日本で、アジアで、世界で、この三〇ー四〇年間、具体的に何が行われてきたか

〔第二講座〕

《環境問題を解く　キーワード解説》

★★★「地球温暖化とＩＰＣＣ」

「多様性の劣化と種の絶滅」

★「CO2削減と　カーボンニュートラル」

★「CO 排出権取引」など

場所：　溝の口、大山会館

日時：　六月十三日　午後二ー四時

参加費：千円（資料代含む）

第１０回国際協力青年ボランティア隊隊員募集

（２０１０年8月２５日ー９月１０日）

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会を提供するとともに、南米、パンタナール地域のインディヒナの子供たちの教育向上に毎年、国際協力青年ボランティアを行って来ました。

今年は当協会で学校を建設したインディヒナマヨ村の学校環境の向上のため、学校の周囲に樹を植える植樹作業と学校修復ならびに教育資材の支援、そしてボリビア国境に近いバイアネグラ市において現地の学生とともに市の植樹活動を行うことになりました。日本からの青年学生の参加者は８－１０名を送る計画です。ふるってご参加ください。

下記にある募集要綱を必要な方は事務局に連絡ください。

第10回国際協力青年奉仕隊プロジェクト支援のお願い

支援はお金だけでなく、未使用の切手、はがき印紙でも
支援の大きな助けになります。　事務局の口座か事務局へ
今年はマヨ村にて植樹活動と学校の修復をする計画です。

南北米福地開発協会　事務局

〒二一三ー〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三ー十一ー十五

岩崎ビル四Ｆ

電話　〇四四ー八二九ー二八二一

Ｆａｘ　八二九ー二八二〇

会費納入　郵便口座

一〇一八〇ー七七六八〇四七一

代表　柴沼邦彦

E-MAIL　office@asd-nsa.jp

ホームページ　http://www.asd-nsa.jp

地球家族として自然を守りましょう

南北米福地開発協会会員の募集

南米、パラグアイパンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。